

高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第33週[8月16日～8月22日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
 TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
 F-mail:kansen@ken4.nref.kochi.in

県内情報

○ 患者情報総評

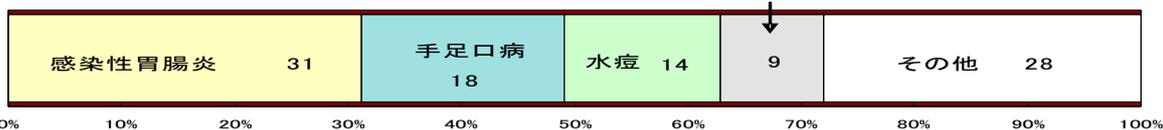
注意報発令疾患：なし

- 増加した疾患があるものの手足口病が約半減したため、総数も減少し注意報値を超える疾患が久しぶりにみられなくなった。

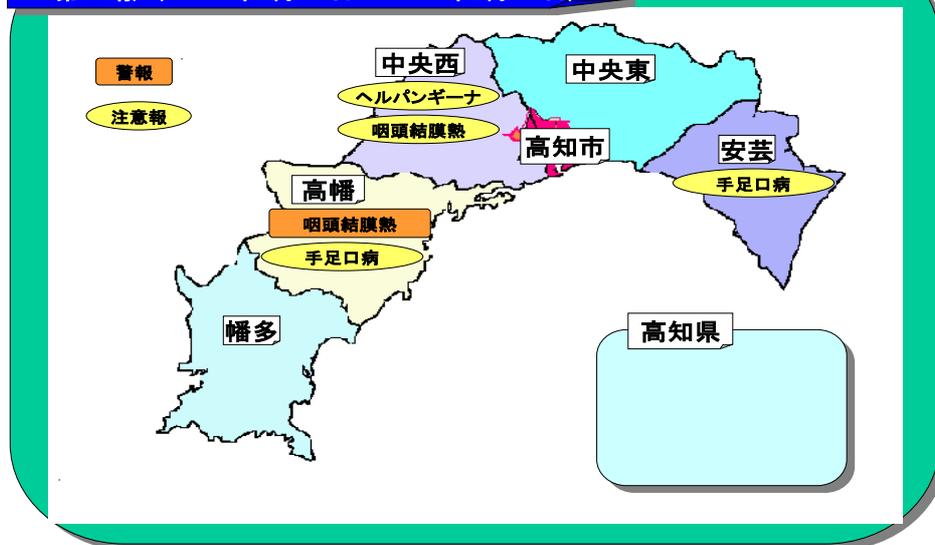
例年この時期から10月頃までは低レベルで推移する疾患が多く、今後大幅に増加する疾患は当分みられないと思われる。

- 手足口病（安芸：警報→注意報，高幡：警報→注意報）は大幅に減少し、終息に向かいつつある。
- ヘルパンギーナ（中央西：注意報→注意報）はやや減少したが、中央西で注意報値を超える報告が続いている。今年は5～6月を流行のピークとして、中程度の流行がみられている。

上位疾患構成図 ヘルパンギーナ

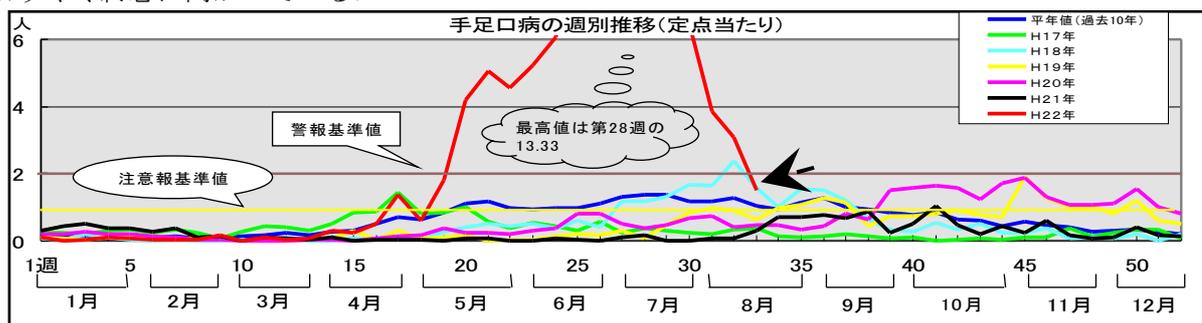


地域別感染症注意報・警報発生状況 第33報 (2010年8月16日～2010年8月22日)



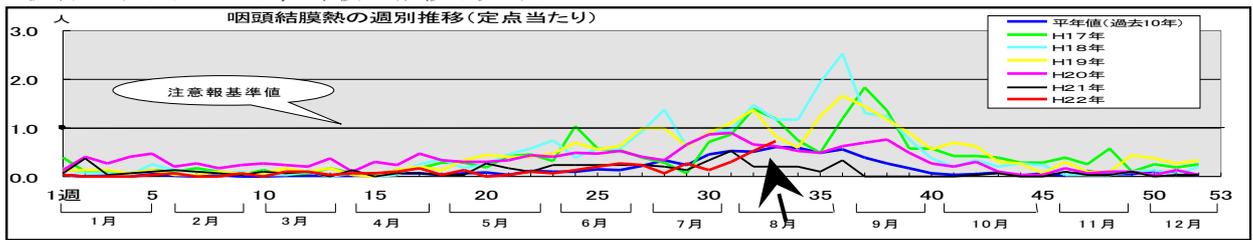
手足口病：今週1.50 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

安芸，高幡ではまだ注意報値を超しているが，全地域で減少しており，4月中旬から始まった大流行もようやく終息に向かっている。



咽頭結膜熱：今週0.73（注意報値：1.00 警報値：3.00）

総数は少ないが3週連続で増加し、高幡で警報値を、中央西で注意報値を超している。例年、この時期は流行がみられており、今後の推移を見守りたい。



水痘：今週1.17（注意報値：2.00 警報値：4.00）

総数は横ばいとなり各地域で増減を繰り返しているが、注意報値を超す地域はみられなくなった。

○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
30	感染性胃腸炎	1歳 女	高知市	Adenovirus 2
29	咽頭結膜熱	2歳 女	高幡	Adenovirus 2

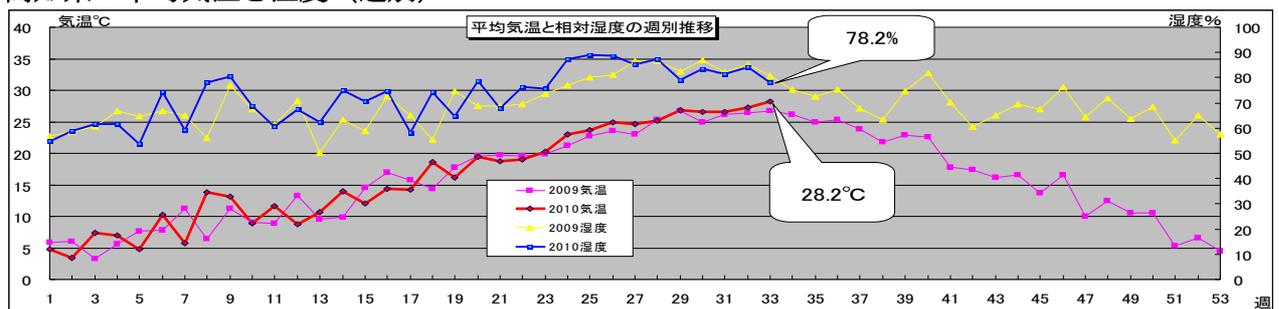
○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 3例（69歳男）《高知市》（81歳男）《中央東》（87歳女）《安芸》
（今年102例：削除されるケースもあるため数字が変動する。）

3類感染症：コレラ 1例（52歳女）《幡多》（今年1例）

腸管出血性大腸菌感染症 1例（3歳男）《中央東》（今年11例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

幡多：

《さたけ小児科》：膿痂疹 6例（1, 2, 2, 4歳男, 1, 2歳女）

ヘルペス性歯肉口内炎 1例（1歳女）

《渭南病院小児科》：マイコプラズマ肺炎 1例（8歳女）

高幡：

《もりはた小児科》：手足口病はほぼ終息

マイコプラズマ肺炎 5例（4, 4, 5, 10, 10歳）

帯状疱疹 1例（12歳男）

中央西：

《くぼたこどもクリニック》：水痘の1例（3歳男）は須崎市

《石黒小児科》：単純ヘルペス 2例（11歳男, 25歳女）

高知市：

《福井小児科・内科》：マイコプラズマ肺炎 1例（10歳女）

《けら小児科・アレルギー科》：マイコプラズマ肺炎 1例（5歳女）

カンピロバクター腸炎 1例（3歳女）

咽頭結膜熱の4例（10ヵ月, 2, 5歳男, 10歳女）はアデノウイルス陽性
病原性大腸菌074, カンピロバクター 1例（17歳男）

《町田病院》：流行性角結膜炎の1例（30歳代女）はアデノウイルス(+)

中央東：

《早明浦病院小児科》：感染性胃腸炎の1例（11ヵ月女）は病原性大腸菌0145, カンピロバクター陽性
1例（2歳男）は病原性大腸菌0153

全国情報第31週 (8/2~8/8) (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

2類感染症：結核315例

3類感染症：細菌性赤痢6例、腸管出血性大腸菌感染症167例（有症者117例、うちHUS なし）、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎2例、デング熱10例、日本紅斑熱1例、マラリア2例、ライム病1例、レジオネラ症15例（肺炎型15例）

5類感染症：アメーバ赤痢17例、ウイルス性肝炎1例、急性脳炎2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群11例（AIDS 4例、無症候5例、その他2例）、梅毒8例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、風しん1例、麻しん11例

報告遅れとして、細菌性赤痢1例、日本紅斑熱2例、ライム病1例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例などの報告があった。

◆腸管出血性大腸菌感染症（2010年8月11日現在）

2010年の腸管出血性大腸菌感染症報告数は、例年同様に第20週から増加し始めた。第22～24週にかけて、三重県の中学・高校における大規模な集団感染事例（189例）が発生したことで一時的に報告が急増した。その後いったん減少したが、第26週以降再び増加して100例を超える報告が続いており、第29週116例、第30週158例で、第31週は167例であった。本年第31週までの累積報告数1,910例は、2000年以降の各年同期間の累積報告数と比較して2001年、2007年に次いで3番目に多い報告数である（2000年1,562例、2001年2,406例、2002年1,752例、2003年1,224例、2004年1,755例、2005年1,715例、2006年1,737例、2007年1,986例、2008年1,844例、2009年1,683例）。

第31週に報告のあった167例は、有症状者が117例（70%）、無症状病原体保有者が50例（30%）であった。都道府県別にみると、福岡県（19例）、東京都（17例）、三重県（16例）、岩手県（13例）、佐賀県（11例）からの報告が多かった。佐賀県では保育施設内でO103 VT1による集団感染が発生し、これまでに園児とその家族から計11例が報告されている。また、三重県では同じ部活動の高校生がO157 VT1・VT2に感染し、第30週以降計10例の感染が報告されている。性別では男性73例、女性94例であり、年齢群別では0～9歳57例、20～29歳32例、30～39歳23例、10～19歳22例の順に多かった。腸管出血性大腸菌感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症者はいなかった。

第1～31週の累積報告数1,910例についてみると、報告の多い都道府県は、三重県（270例）、福岡県（162例）、東京都（157例）、愛知県（138例）、大阪府（96例）であり、性別では男性897例、女性1,013例、年齢群別では0～9歳509例、10～19歳408例、20～29歳296例の順に多い。第26週以降、特に愛知県と三重県で食中毒事例が複数発生し、O157 VT1・VT2の報告数が増加している。また最近では、第30週から長野県と宮城県でそれぞれO26 VT1集団感染事例が発生している。HUS発症者は累計42例報告されており、性別では男性18例、女性24例で、年齢群別では0～4歳25例、5～9歳3例、10～14歳3例、15歳以上11例であった（表）。死亡例はこれまでに2歳男性（O157 VT1・VT2、HUS発症）と90代男性（O157 VT1・VT2、HUS発症せず）の2例が報告されている。

表. 腸管出血性大腸菌感染症の溶血性尿毒症症候群（HUS）の年齢群別報告数（2010年第1～31週）

	総届出数	患者	HUS	HUS/患者
0～4歳	309	260	25	9.6%
5～9歳	200	163	3	1.8%
10～14歳	124	102	3	2.9%
15歳以上	1,277	715	11	1.5%
総計	1,910	1,240	42	3.4%

毎年本症の報告がピークとなる8月に入り、今後もその発生動向には注意が必要である。食肉の十分な加熱処理などにより、食中毒の予防を徹底するとともに、手洗いの励行などにより、ヒトからヒトへの二次感染を予防することが重要である。

◆手足口病患者から検出されているエンテロウイルス 2010年

エンテロウイルス71型（EV71）は、過去1997、2000、2003、2006年と3年周期で増加を繰り返している。2009年の報告は少なかったが、2010年に入ってから例年より早い時期に検出されており、第30週までに高知県77件、鳥取県34件、大阪府31件、大分県29件、広島県27件、和歌山県22件、兵庫県19件、愛媛県18件、栃木県17件、山形県、奈良県各16件、愛知県15件、熊本県9件、島根県8件、山口県、香川県各7件など西日本を中心に32府県から409件の検出が報告されている。このうち、手足口病患者から323件、無菌性髄膜炎患者から17件、ヘルパンギーナ患者から10件、急性脳炎・脳症患者から4件が検出されている。

EV71の他に手足口病患者から検出されているエンテロウイルスは、A群コクサッキーウイルス（CA）16型15件（山形県11件、神奈川県2件、埼玉県、愛媛県各1件）、CA6型28件（神奈川県、富山県各9件、秋田県8件、栃木県2件）、CA4型10件（神奈川県、大阪府各3件、栃木県、奈良県、和歌山県、福岡県各1件）、CA5型3件（島根県2件、高知県1件）、CA2型1件（高知県）などが報告されている。

◆ヒトから検出されているVero毒素産生性大腸菌 2010年

2010年第1～31週までの検出総数は377件で、第9～10週に山形県の老人ホームでの集団発生からO111（VT1）が7件、第22週に兵庫県の飲食店での集団発生からO157が3件検出されている。第3週に大阪府でインドネシアへの渡航者、第6週に千葉県でニュージーランドへの渡航者、第16週に静岡県でベトナムへの渡航者、第22週に千葉県で韓国への渡航者各1例からO157が検出されている。

2010年1～8月にO157が35都道府県から241件、O26が23府県から69件、その他の血清型が23都道府県から69件（このうち、O91が11道府県から14件、O111が5県から12件）報告されている。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(32週)	高知県(33週末累計) H22/1/4~H22/8/22	
			中央東	高知市	中央西							
内科・小児科	インフルエンザ									162 (0.04)	2,546 (53.04)	
小児科	咽頭結膜熱		2	9	3	6	2	22 (0.73)	16 (0.53)	784 (0.27)	122 (4.07)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	8	1		2	12 (0.40)	14 (0.47)	1,352 (0.46)	731 (24.37)	
	感染性胃腸炎	10	15	22	17	3	12	79 (2.63)	55 (1.83)	7,021 (2.40)	7,136 (237.87)	
	水痘	3	8	16	3	3	2	35 (1.17)	35 (1.17)	2,081 (0.71)	1,484 (49.47)	
	手足口病	7	5	19	4	4	6	45 (1.50)	93 (3.10)	4,727 (1.62)	3,059 (101.97)	
	伝染性紅斑		5	7			1	13 (0.43)	16 (0.53)	772 (0.26)	179 (5.97)	
	突発性発疹		1	7	1	1	6	16 (0.53)	15 (0.50)	1,622 (0.56)	406 (13.53)	
	百日咳								6 (0.20)	91 (0.03)	50 (1.67)	
	ヘルパンギーナ	2	3	5	10			3	23 (0.77)	31 (1.03)	5,485 (1.88)	945 (31.50)
	流行性耳下腺炎			1	1	1	1	4 (0.13)	7 (0.23)	3,305 (1.13)	167 (5.57)	
	RSウイルス感染症									196 (0.07)	760 (25.33)	
眼科	急性出血性結膜炎									11 (0.02)	2 (0.67)	
	流行性角結膜炎			3				3 (1.00)	7 (2.33)	411 (0.62)	52 (17.33)	
基幹	細菌性髄膜炎									8 (0.02)	9 (1.29)	
	無菌性髄膜炎									33 (0.07)	14 (2.00)	
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.14)	1 (0.14)	156 (0.34)	47 (6.71)	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			2				2 (0.29)		16 (0.04)	21 (3.00)	
計 (小児科定点当たり人数)		22 (11.00)	40 (5.71)	100 (8.55)	40 (13.33)	18 (9.00)	35 (7.00)	255 (8.30)				
前週 (小児科定点当たり人数)		31 (15.50)	57 (8.14)	113 (9.55)	46 (15.33)	31 (15.50)	18 (3.60)		296 (9.60)	28,233	17,730 (554.34)	

注 ()は定点当たり人数。

定点当たり

第33週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(32週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.04
小児科	咽頭結膜熱		0.29	0.82	1.00	3.00	0.40	0.73	0.53	0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.73	0.33		0.40	0.40	0.47	0.46
	感染性胃腸炎	5.00	2.14	2.00	5.67	1.50	2.40	2.63	1.83	2.40
	水痘	1.50	1.14	1.45	1.00	1.50	0.40	1.17	1.17	0.71
	手足口病	3.50	0.71	1.73	1.33	2.00	1.20	1.50	3.10	1.62
	伝染性紅斑		0.71	0.64			0.20	0.43	0.53	0.26
	突発性発疹		0.14	0.64	0.33	0.50	1.20	0.53	0.50	0.56
	百日咳								0.20	0.03
	ヘルパンギーナ	1.00	0.43	0.45	3.33		0.60	0.77	1.03	1.88
	流行性耳下腺炎			0.09	0.33	0.50	0.20	0.13	0.23	1.13
	RSウイルス感染症									0.07
眼科	急性出血性結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎			3.00				1.00	2.33	0.62
基幹	細菌性髄膜炎									0.02
	無菌性髄膜炎									0.07
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14	0.14	0.34
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.40				0.29		0.04
計 (小児科定点当たり人数)		11.00	5.71	8.55	13.33	9.00	7.00	8.30		
前週 (小児科定点当たり人数)		15.50	8.14	9.55	15.33	15.50	3.60		9.60	

2010年週報推移(定点当たり)

